

ニイガタ 子ども会

No. 118



設立五十周年記念式典 (第四十九回全国子ども会育成中央会議・ 研究大会) に参加して

新潟県子ども会連絡協議会 会長 須田 貴子

十月十七日～十八日に、群馬県ホテル木暮で開催された全国子ども会育成連合会の設立五十周年式典に武士侯顧問・花澤副会長、岡田副会長と出席して参りました。また、育成者として長年ご尽力いただきました阿賀野市の加藤様ご夫妻、上越市(三和地区)の大坪様が全子連表彰を授与されました。誠にありがとうございました。

今回の中央会議は、五十周年記念式典もあり、今までの研究大会と違い、先進的な取り組みをされてきた県の紹介や様々な問題提起がされる場面もありました。

昨今の急速に変化する社会情勢に伴い、子どもを取り巻く環境も設立から大きく変わり、全国でも会員の減少や親の意識の変化をはじめ幾つもの課題が指摘されておりました。

「子どもは地域で育つ」という基本理念に基づき、地域に根差した社会教育団体という自覚を持ち、これからは全国子ども会連合会と連携し、具体的な取り組みをしていかな

ければならないと、痛切に感じた大会となりました。

十八日から開催された関東甲信越静大会に参加するために到着した他の役員と合流し、午後から開催された合同部会協議に参加。その後の情報交換会では多くの方々とコミュニケーションをとることができました。

会員の減少や活動の縮小などは、一概に役員だけの問題ではありませんが、子ども会に関わる全ての育成者で取り組むべき課題であると捉え、新潟県でも「シニア、シジュニア・リーダーの受け皿作り」や「保護者の理解と参加による子ども会活動の活性化」、「子どもたちに残し伝えたい自然との共存」など、様々なことにチャレンジして取り組まなければならない時期にあると感じています。

新潟県子連も、来年は四十周年を迎えます。



先人から引き継いだ思いを伝え、市区町村単位子ども会や学校・公民館・子育て支援団体等と連携した中で「しなやかな」子どもを育てられるよう働きかけ、ふるさとを愛し、子ども自らが考え、年下の子もたちをサポートできる子ども会活動へと導くことができるよう、一層の努力をしたいと思っております。

最後になりましたが、全国の育成者が多様な地域の事例を学び、出会う「きっかけ」の場として、これからも中央会議・研究大会が益々発展することを祈念し、大会報告と致します。



第四十八回関ブ口育成研報告

これまでの五十年から これからの五十年へ

新潟県子ども会連絡協議会 副会長 梶澤 政晴

榛名山の麓、伊香保の地で、関東甲信越静地区子ども会育成研究協議会が、各県から二百五十名余の参加者と群馬県の運営員九十名の協力のもと盛大に開催されました。

今回は、全子連の五十周年記念大会が十月十八日から二日間に行われた。全国から五〇〇名以上の参加者を迎え盛大に行われた大会の後を受け、熱心な大会となりました。

「子どもたちのための子ども会活動の充実・発展に向けて、育成活動の原点に帰ろう」をスローガンに、五つの部会に分かれて意見交換が行われました。私は、第二部会の「五分間KYTをどう進めるか」に出る予定でしたが、昨年から全子連が力を入れている、シニアの育成に関し、各県のシニアを集め、その交流会に参加することとなり、参加させて頂きました。まず、川本静岡県子連会長



からこの交流会の開催趣旨が話され、その中で、五十周年記念式典で丸山康昭会長が話された「これまでの五十年から、これからの五十年を目標して」を受けて、シニア育成の重要性が語られました。そして、リーダーとしての自覚の大切さ、自己を磨き、自信を持つての行動の大切さが語られました。

この交流会には六県から、シニア十七名と県のシニア担当などが参加し、全子連事務局長の司会のもと、活発な意見交換が行われました。まず自己紹介を兼ねて、それぞれの県でのシニアの立場や活動内容が話されました。それによると、神奈川県はシニアはケンコレンジャとして、認められています。県としてシニアを確立しているところとシニア組織がないところに分かれます。其々の県によって、シニアの立つ位置が違い、今後の課題と感じました。新潟県もシニアが確立していません。今後、ジュニアを卒業した子たちの受け入れとしても、シニアの確立は大切なことだと思います。そのためには、各団体との十分な話し合いが必要になってくるでしょう。

河本副会長は閉会式で、今後の夢を語られました。各県でシニアを確立し、近い将来ジュニア・リーダー



の全国大会を、シニアたち若い力で、新たな形で開催したいと述べられました。ジュニア・リーダーの全国大会が再開されれば、ジュニアにとって今後の活動に励みとなり、ジュニア育成にとっても力になっていくのではないのでしょうか。今後の取り組みに期待していききたいと思います。

今回の大会を通じて得るものがあった大会だと思います。今後に生かしていきたいものと考えながら帰途につきました。



子どもの体験活動の引率について

県立青少年研修センター 研修課長 河野 理彦

一、はじめに

新潟県立青少年研修センターは、昭和四十五年に「青年の家」として新潟県が青少年の健全育成のための研修の場として設置した施設です。

より多くの県民が、より良い研修を行えるように、新潟県が「新潟県青年の家条例」「新潟県青年の家管理規則」「新潟県立青少年研修センター使用規程」というきまりを定め、それに基づいて運営しております。利用団体の研修依頼にも対応できるように直接研修指導を行うことができる研修課職員も配置されています。

開設当初は、勤労青少年の宿泊研修を主体としていましたが、社会情勢の変化により、利用団体の中心は小・中学校へと遷り変わりました。

二、主な利用例

毎年子ども会活動の場として利用頂いておりますが、その他の団体種別の主な利用例としましては、小学校においては、ウォークラリーや野外炊事、キャンプファイヤーなどの活動で仲間と協力して成し遂げる体験活動の実施。中学校においては、

グループワークトレーニングやレクリエーション、オリエンテーリングなどの活動で、より良い人間関係を構築するための研修の実施。高等学校・中等教育学校は、学習習慣の形成をねらいとする学習合宿や講演会の会場としての利用。その他、クラブ活動や社会体育の練習、合宿会場としての利用。企業等の新人研修などの利用です。

三、今後の利用

利用者数は、いままでで約百七十万。毎年三万人以上の方から利用頂いております。

築四十五年、大きな改修もなく、老朽化も進み、開所当時の仕様のままで皆様にいたわりの心で利用して頂いた当センターの施設は、耐震診断の結果、震度六強程度以上の大規模地震時に倒壊する危険性があることが判明し、本年十二月末をもって利用を停止することとなりました。当センターの今後につきましては、後日正式な発表があることと思えます。

四、研修の主役

当センターでの研修目的は青少年

の健全育成です。主役は、研修生（子ども）です。

より多くの団体が、より多くの研修効果を得られるように事前の準備や調整が必要となります。

特に、「場所」「時間」「研修内容」など、研修者（子ども）に周知し準備してもらい、研修当日、効果的な研修ができるように、引率代表者との事前打ち合わせをおこなっていただきます。

非日常（普段と異なる場所で、日頃の生活環境に当たり前のものもなく、時間も空間も制限されている）も研修効果を高める大切な要素です。

子どものほとんどは、上手に適應できますが、たまに適應できない大人が引率してくる場合があります。研修効果を下げる要因と思います。

子どもは、「良いこと」「悪いこと」も大人を手本にして成長します。

五、日頃の関わりで感じること

入所オリエンテーションのはじめに三つの約束をお願いしています。

「あいさつ」「五分前行動」「来たときよりも美しく」

これは集団行動には欠かせないマナーです。更に、研修場所や時間を守ることで多くの団体が利用したい時期に同じ施設内で研修が可能になります。

たまに、使い勝手が悪いという意見を頂きます。当センターの研修メニューやきまりに従わずに、自分たちが普段行っている方法で、自由に研修できるように融通を利かせてくれという内容です。

引率者の「喫煙」「飲酒」「夜間の外出」についてもです。

その行為は、研修生にとって教育的でしょうか。

非日常の環境での研修・宿泊は、体調を崩す要因が多くなります。特に、家族・教師以外の方が引率される場合、普段接することのない個々の子どもの特性を把握することも体調変化の発見も難しいと思われれます。更に、子ども自身も体調不良を言い出しづらく我慢したり、集団の行動も落ち着かず、事故・怪我・喧嘩などが発生する可能性が高まります。特に、飲酒や夜間の外出は、もしもの対応することが不可能になります。

子どもは、大人を手本にして成長します。地域の子ども会を運営する皆様の心にとめて頂ければと思います。

上越地区

楽しかった

バーベキュー

上越市吉川区原之町子ども会

六年 小山 瑞稀

七月十八日に子ども会でバーベキューをしました。その日は、台風が三つも来ていてできるのかとても心配でしたが、小雨で風がなかったため、なんとかできました。大人と子どもを合わせると四十一名になり、とてもたくさんの人でした。

私たち六年生七人で、レクリエーションや会の進行をしました。私は司会で、みんなの前で話すことが多くて緊張しました。でも、大きな声で話すことができたので、良かったです。

レクリエーションは、新聞ジャンケンやスイカ割りをしました。なかなかスイカが割れなくて、バットの方がこわれてしまいびっくりしました。切ってもらったスイカは、とても甘くておいしかったです。

バーベキューは、六年生が低学年のお世話をしながら食べました。肉、焼きそば、トウモロコシ、

フランクフルト等、食べきれないほどありました。食べ終わったら、みんなでおにごっこをしました。

閉会式の後には、六年生も後片付けを手伝いました。そして、そのままクリーン作戦をしました。通学路や公園のゴミを拾って歩きました。公園には、お菓子のゴミが多くありました。

私は、子ども会の行事で、違う学年の人ともたくさん話すようになりました。みんなと仲良くなって、楽しく過ごせる行事が、これからも続いていくといいなと思いました。



中越地区

大成功した黒条夏祭り

長岡市黒条連合子ども会

六年 横山 碧

ぼくは、七月二十六日に黒条小学校の体育館でやる「黒条夏祭り」を計画し参加しました。黒条地区の幼児や大人、一〜六年生までの多くの人が、夏祭りに参加し、バームクーヘン食い競争、障害物競争、ビンゴと、三つのゲームをして楽しみました。

最初にやったバームクーヘン食い競争では、幼児や大人、一〜六年生の順番でやりました。大人の方には幼児の子についてもらい、一緒に走ってもらいました。一〜六年生の子は、それぞれ走ってもらいました。体育館には笑顔や笑い声があふれとても楽しくできましたと思います。バームクーヘンを取り、ゴールをして、ほとんどの子が、「ヤッター」と喜んでいました。

次に、障害物競争をしました。このゲームでも、幼児の子に大人の方がついて一緒に走ってもらい、一〜六年生には、それぞれで走ってもらいました。障害物競争をやるにあたって、ぼくはケガのことが心配でした。ですが本番では、ケガをした人はだれもいなく、とても楽しく障害物競争ができたと思います。このゲームは、最初に係の人とジャンケンをし



て、勝った人から次に進みます。次はブルーシートをくぐり進みます。最後に、小さいプールの中にあるあめをスプーンで取って、スプーンにつけたままゴールし、あめをけい品としてもらうというものです。みんながあめを喜んでくれました。

最後にビンゴをしました。ビンゴを続け、リーチの人ができると、いきおいよく「リーチ。」と言いながら立つ人もいました。そしてビンゴになった人ができると、「ビンゴ。」と喜びながらけい品がおいである所につめかけ、楽しそうに、けい品を選んでいました。最初にビンゴしたのは六年生の友だちでした。ぼくはびつくりして、「おめでとう。」と声をかけました。ビンゴは、とてももりあがったと思います。ぼくは六年生で、来年小学校を卒業するので、もうこのとても楽しい黒条夏祭りにでられなくなってしまうと思います。来年の黒条夏祭りは、いまの五年生にひっぱってもらい、大成功させてほしいと思います。

下越地区

吉田祭りに参加して

燕市吉田東町子ども会

六年 渡辺 楓音

私たちの住んでいる吉田の東町では、夏休みの初めに「吉田祭り」に参加します。町内ごとに分かれて、昼は、よさこい、子どもみこし、おはやしを、夜は、いくつかの町内が合同で、吉田駅前ではよさこいをひろうしました。私たちは「二世風靡」と「吉田はんじょう節」をよさこい風にアレンジした踊りを白い旗と鳴子を使って踊りました。昼は、東町の広場で地域の方たちによさこいをひろうして始まりました。その後、町内のいろいろな場所、踊りや子どもみこし、おはやしをしました。暑い中たくさん動いたのもとても疲れましたが、友だちと一緒にたからがなればれました。



夜は、吉田駅前でも子どもみこしのもみ合いから始まりました。町内ごとに作ったみこしで競い合いました。次に、順番によさこいをひろうしました。私たちは、昨年優秀賞でした。今年は、最優秀賞が欲しくて、六月の中旬から約一カ月半の間、たくさん練習をしました。私たちの町内は人数が多いので、合わせるのが大変でした。でも、どうしても最優秀賞が欲しかったので、何度も繰り返し練習しました。本番の日は、朝から二日動きどつしで疲れていたけど、皆で練習してきたことを思い出して、精一杯踊りました。結果は、残念なことにまた優秀賞でした。

私は、三年生の時から吉田祭りに参加してきました。今六年生なので、参加は今年で最後です。最優秀賞がとれ

なかったのは心残りですが、精一杯踊ったので悔いはいらないです。すごく疲れたけど、とても楽しかった夏休みの思い出ができました。

吉田まつりに参加して

燕市吉田東町子ども会

六年 武田 彩花

私たちはこの夏、「吉田祭り」に出ました。私たちがしたのは、二日目です。昼は、町内を一しゅうして、すごく暑かったのを覚えてます。しかし、PTAの人たちが、熱中しよう予防に、霧吹きで水をかけながら一緒に参加してくれました。なので今年は、熱中しなくなった人が少なくてよかったです。

夜の部は、すっごく緊張しました。理由は、すっくおどりが上手な町内といっしょにおどるので、すっく不安でした。

いよいよおどる時が来ました。友だちは、緊張がピークになり、転んで骨折してしまいました。でも、流石会の絆は強く、みんなで協力し合って、みごとに優秀賞になりました。

でも、みんなの思いの優勝にはあと一歩とどきませんでした。すっく悔しいけれど、この夏サイコーの思い出になりました。

このように、私たち流石会は、この夏サイコーの思い出と、みんなの絆の強さが分かりました。だから、みんな今年は楽しかったの、また来年に一緒におどります。みんなで協力して、優秀賞とサイコーの思い出ができた。忘れられない夏まつりでした。

佐渡地区

川茂地区運動会に参加して

佐渡市川茂子ども会

六年 風間 なぎさ
五年 佐々木 晴乃

川茂小学校が閉校して、今年で三年になりましたが、今も川茂地区だけで運動会を開催しています。

私は、川茂地区の運動会に参加し、地域の方々といっしょに、年配の方から、小学生、中学生そして保育園の子ともたちもいきいきと楽しんだ一日になったと思います。

午前の部では、自分の出る競技もあり、ワクワクしながら入場門へ急ぎました。結果は、おしくも負けてしまいましたが、とても楽しかったです。お昼休憩には、友だちと体育館でバドミントンをしたり、鬼ごっこをして遊びました。川茂小学校が閉校してから、あまりみんなで遊ぶことが無かったからとても楽しかったです。

そして、いよいよ最終種目の紅白綱引



きになり、グラウンドに「ワッ」と歓声が上がりました。結果は、大きく差をつけられ負けてしまいました。勝敗など関係なく充実した一日となりました。

私は、川茂地区の運動会に参加して、改めて感じたことが二つあります。

一つ目は、川茂全体、集落の団結力です。理由は、紅白対抗などの時、人数が多すぎて一人一人が助け合いながら競技に参加していたからです。



小学校の運動会として行われていた頃は、小学生メインだったけれど、地域の人とチームとして取り組むことで、地域全体での団結力を改めて感じることができました。

二つ目は、小学校が閉校して、運動会も無くなってしまうので、三回目でしたが、行つことができてうれしかったです。

私にとって川茂地区運動会は、地区の大きな行事の中の一つなので、この先もずっと続けてほしいと思います。

平成二十七年

第一回中学生・高校生ジュニア・リーダー中級研修会

中級研修会に参加して

長岡市 高一 長谷川朋美

私は、今回中級研修会に参加したのは三回目でした。

印象に残っているのは、KYTをみんなで作ったこと、野外炊事、バルーンアートです。KYTの演習では、ボードを使って班のみんなで危ない場所を探しました。改めて自分で探してみる危険なところはたくさんあり、気をつけなければいけないことを知りました。危険をなくすことはできないけれど、「事故に結びつけないことが大切」という言葉がとても印象に残りました。野外炊事では、かまどから自分で作ることは初めてで、かまどの作り方を学ぶことができました。風の向きによってかまどの向きを変えることが大切ということ学びました。バルーンアートでは、たくさん種類のバルーンを作りまし

た。私は最初、犬の作り方くらいしか分からなかったのですが、いろいろな種類のバルーンの作り方を学びました。



2015/06/2

このことを後輩に伝えてよりよいジュニア・リーダーズクラブにしていきたいと思いました。

中級研修会で学んだこと

長岡市 中三 服部 風香

今回の研修は宿泊だったのでより仲間と意見の交換ができました。

他の地域のリーダーと交流し、新しいアイディアを吸収できるのも、中級研修のよいところで、私は他の地域の人たちから、「5W2H」という言葉を学びました。これを考えながらイベントを計画しないと、スムーズに進まないと思い、これからはしっかり考えようと思いました。

また、研修の講義の中で、一番印象に残ったのが「子ども会の意義」という講義です。私は今まで、ジュニア・リーダーとしてイベントを盛り上げることは子どもたちと楽しんでいることだと思っ

ていましたが、「子ども会とは、子どもたちが豊かな心を持ち主体的に動くようになるためのもの」で、私はそれを手助けする役割だということ学びました。まだ参加者として参加していたとき、確かにリーダーは子ども



子どもの意見を聞いたり助

言をしながらかん守っていたりしたことを思いだし、これからはリーダーの自覚をもって行動したいと思いました。そして今回学んだことを自分の地域のリーダーにも伝えたいです。

中級研修会に参加して

長岡市 中二 作田 ますな

今回の研修会に、初めて参加しました。少し不安だったけれどリラックスしてのぞめました。

研修会でたくさん学ぶことができました。まず、「返事が大切」ということを学びました。あとあいさつをしつかりとすること学びました。

そのほかにもたくさん学ぶことができました。「子ども会とは、子どもたちが社会性を身につけるためにある」のだと知ることができました。

ジュニア・リーダーの大切さなど改めて感じました。それとKYTでは、危険は隠れる、動くという

ことを学びました。野外で活動するときに、どんな危険が隠れているのか考えて行動することが大切だと思いました。ほかにも、キャンプファイヤーやバルーンアート作りなど、たくさん体験できないことができたので良かったです。

今回の研修で学んだことを、地域の活動に活かしていきたいです。



201

中級研修会で学んだこと

長岡市 中一 荒川 咲希

私は今回、初めての中級研修会でした。なので、不安もたくさんありましたが、他の地域のジュニア・リーダーとも仲よくなれたし、班の仲間と協力できたのでよかったです。

私は今まで、実際にキャンプをしたり、野外炊事をしたりという研修はやってきたけれど、詳しい講義を聞けることはなかったので良い経験になりました。特に、『子ども会の意義について』と『ジュニア・リーダーの役割について』が心に残りました。

『子ども会の意義について』は子ども会がどういう集団なのか学びました。『ジュニア・リーダーの役割』では、子どもたちが安全に楽しく活動できる環境づくりが大事なのだと思います。

これらの講義をうけて、私は今後の目標を決めました。

『時間や返事に注意して、頼られるジュニア・リーダーになる』

です。今回、最も多く注意されたのが返事のことなので長岡でもしっかりと、大きな声を出したいと思います。そして、頼られるジュニア・リーダーを目指してがんばります。

ジュニア・リーダーとして

頸城区 中三 林 珠那

私がこの研修会に参加したのは昨年

てきた空気に触れることで緊張もなくなつて、より自然に研修を進めることができました。

今回の研修では、子ども会の意義について改めて考えることがありました。シュニア・リーダーの活動を続けていると、そのことについて忘れてしまうことがあります。シュニア・リーダーという存在は、なんのためにあるのか、具体的には何をするのかということが一番深く考えさせられました。その中で最も心に残ったことは「シュニア・リーダーが子どもたちと大人の方々とのかけはしになる」ということです。そうすることで、「子どもが主役の子ども会を創り上げることができるのだ」ということが、とても印象深く残っています。

この研修の他にもたくさんさんの講義や実習があり、どれもいい経験になりました。そして、この研修会の講師・指導者をして下さった方々のお話もたいへん興味深いものでした。この研修で学んだことをこれから活動にどんどん活かして頑張ります。

中級研修に参加して

頸城区 中三 森田 爽斗

自分は、三回目の中級研修でした。なので、中級をとるため、一生けんめいに取り組みました。講師の方の



三回目の中級研修に参加して

頸城区 中三 笠原 結夏

私は今回で中級研修会の参加は三回目でした。最初は、まわりの人と少し距離がありなかなか自分から進んで行動することができませんでした。交流を深めることにより、だんだんいろんな子とさまざまなことを協力してできるようになりました。

今回の研修会では、あらためて考えることや反省するところ、改善した方がいいなと思うことなどたくさんの方を思いましました。シュニア・リーダーはどんな風に、なにをするのか、大人と子どものかけ橋になるにはどうすればいいのかなど、改めて考えることもありましました。そして、自分を振り返ってみてどうだったろうか。とこれまでのことを振り返ってみるいい経験となりました。

そのほかにも夜のためにキャンプファイヤーを組み立てたり、役を決めて司会進行をしたり、レクリエーションなどをしてたくさんすることを知りました。

今回の中級研修会で学んだことを自分の地域のほかの活動でも生

話ばかりとメモをとり、今後に生かしていけるようにし、体験的な創作活動では、自分が小学校生に教えられるように手順を覚えることができました。今回で、ついに中級のしかくをとれたので、今後は自分の中級のしかくをいかして、様々な活動にチャレンジしていきたいと思います。

かしていくのと同時に新しく入ってくるリーダーの子たちにも広めていきたいなと思います。

研修会を振り返って

頸城区 中三 大原 柊磨

僕はこのJL中級研修会で色々な事も学べたし楽しめました。特に楽しかったり、学べたと思ったことは三つあります。

一つ目はKYTです。KYTはほとんどの行事でするので中級研修会でさらに学んで他の行事でどんどんつんでいってどんな行事でも、小学生・中学生も注意できるように自分も気を付けていきたいです。

二つ目はキャンプファイヤーです。キャンプファイヤーでは自分たちで準備、そしてゲームなどをすべて自分たちで提案したもので、とても良い経験になりました。ですが、自分たちから出せるゲームが少なかったで少しづつ種類を増やして、リーダー研修会などで毎回同じゲームになってしまわないようにしたいです。

三つ目は野外炊事です。野外炊事の力作りではあまり関わらない人だったけれど、とても楽しくできました。でも、一度だけ注意を受けたので次はないうちに気をつけま

中級研修会では



色々なことを学べたので、これからはそのことをしっかり活かして自分たちの活動につなげていきたいと思っています。

中級研修会で学んだこと

新潟市 中一 阿部 正倫

僕はこの中級研修会に初めて参加をしました。どうして参加したかという、昨年、シュニア・リーダー育成講座に参加をして、とても楽しくて良い経験ができたので、今年はさらにその上の中級レベルに参加することで、リーダーとして必要なことをもっと学んでみたかったからです。

中級研修会一日目は子ども会の意義について学びました。どんな子ども会の活動があるのか、ふせんを使って体験した事を書いて黒板にはり、みんなで発表していきましました。

夜はキャンプファイヤーをしました。みんなと一っしょにスタンツなどをして、交流を深め合いました。

二日目は野外炊事です。一日目で学習したKYTを生かしながら力作りをしました。手際良く作って、後片付けも、使った前よりきれいにすることを意識しながらがんばりました。

研修会を終えて、子ども会やKYTについてより深く学ぶことができたし、知らなかった人たちと知り合って協力して活動するという経験ができました。この二日間の研修を通して、シュニア・リーダーとして少しは成長できたと思います。これから学んだことを生かして、地域の子ども会のリーダーとしてがんばりたいです。

平成27年度

第43回 関東甲信越静地区子ども会 ジュニア・リーダー研修大会報告

大会スローガン 「ふじのくに」 大地と共に人づくり !!

みんなで昇めようリーダー力

1 期 日 平成27年9月20日(日)～22日(火) 2泊3日

2 場 所 静岡県立朝霧野外活動センター

3 参加者 清水 睦希(長岡市)
長谷川朋美(長岡市)
引率者 小林 千尋(長岡市)
県子連から 須田 貴子 会長
柊澤 政晴 研修部長

【大会日程・プログラム】

時刻	1日目 9月20日(日)	2日目 9月21日(月)	3日目 9月22日(火)
6:00			
7:00		起床	起床
		ふれあいタイム	ふれあいタイム
8:00		朝食	朝食
9:00			
10:00			まとめ・発表
11:00			閉会式
12:00			別れのつどい
13:00	受付(12:30～)	応急手当講習 KYT講習 ウォークラリー	解 散
14:00	開会式(13:30～)		
15:00	仲間づくりⅠ		
16:00			
17:00	ふれあいタイム	ふれあいタイム	
18:00	夕食	夕食	
19:00			
20:00	仲間づくりⅡ	キャンプファイヤー	
21:00	入浴	入浴	
22:00	就寝準備	就寝準備	
23:00	就寝	就寝	

*プログラムの内容及び開始時刻は、変更する場合があります。

関プロに参加して
長岡市子連ジュニアリーダーズクラブ
高校二年 長谷川朋美
私は、初めて関プロで緊張とわくわくでいっぱいでした。ジュニアを始めた頃から関プロに参加したくて、今回参加して楽しかったです。
コミュニケーションについて班で話し合ったり、取材をたくさんしました。取材はテーマにそって参加者全員で聞き合うというもので、コミュニケーションの難しさとかツツを知りました。取材で大切なことを考えた時に話す側は大体想像つきますが、聞く側は相づちや、目を見て聞いたりしているという印象というのをしりました。他県でやることが全然違ってとてもいい経験になりました。

他県JLとの初交流
長岡市子連ジュニアリーダーズクラブ
高校二年 清水 睦希
今回の関プロは静岡で行われました。私は県外のJLと交流するのが初めてだったので、学んだことがたくさんありました。その中でも、特に為になったなと思うことが二つあります。
一つ目はあいさつ・返事の良さです。「こんなにあいさつが大きいなんて、すごいな」と驚きました。長岡市子連でも返事はきちんとしていますが、他県のJLのあいさつや

返事を聞いてまたまた足りないなと思ったので、みんなで改善していきたいです。
二つ目は、自分達のいいところにも気付けたことです。最初は学ぶことだけを考えていましたが、たくさんの人と交流しているうちに、長岡市子連のいいところを自然に知ることができました。これからもっといいところを増やしていきたいです。
この三日間でたくさんの仲間を作れたし、知らないことを学べました。もう一回参加するのは難しいかも知れないけど、後輩のJLに参加してもらい、JLがどんどん成長していけたらいいなと思います。



地区別総会のようす

<下越地区>

- ・期 日：平成27年5月31日（日）
- ・会 場：新発田市生涯学習センター
- ・参加者：4名
（新潟市・阿賀野市・新発田市・胎内市）
- ・議 題
 - 1) 平成26年度事業報告と決算報告について
 - 2) 平成27年度事業計画（案）と予算（案）について
 - 3) 平成28年度新潟県子連総会開催地
 - ・日時：平成28年5月15日（日）
 - ・会場：新発田市
 - 4) 平成28年・29年度下越地区子ども会連絡協議会会長について
 - ・新発田市子連が会長
 - 5) その他
市子連の組織・強化について…今後も協議する。
- ・感想
下越地区の子ども交歓大会を阿賀野市で行うにあたり、多くの子どものために参加してもらう方法等について話し合いました。

<上越地区>

- ・期 日：平成27年5月29日（金）
- ・会 場：直江津駅前 附船屋
- ・参加者：17名
- ・議 題
 - 1) 平成26年度事業報告並びに決算の承認の件（会計監査報告）
 - 2) 平成27年度事業計画（案）及び27年度予算（案）承認の件
 - 3) 役員改選の件
- ・感想
来賓として上越市教育委員会社会教育課の大山課長様、青少年育成係、佐藤係長様が出席されました。
大山課長様より「今年は市制10年のふしめの年であり、いろいろなことが見直しされる時期に入った」というお話がありました。
いろいろな情報交換が行われ良かったです。

<佐渡地区>

- ・期 日：平成27年5月21日（木）
- ・会 場：アミューズメント佐渡 文弥人形室
- ・出席者：14名出席
- ・議 題
 - 1) 役員改選について
 - 2) 平成27年度事業計画（案）について
 - 3) 平成27年度予算（案）について
 - 4) 平成27年度新潟県少年の主張大会
～わたしの主張～
佐渡地区大会の共催について
 - 5) 新潟県子ども会連絡協議会「県子連だより」執筆順について
 - 6) 全国子ども会安全共済会について
 - 7) その他
- ・感想
今年の重点として「行政や他団体と連携し、親子が共に参加する事業を行う。」ということが話し合われました。

<中越地区>

- ・期 日：平成27年5月10日（日）
- ・会 場：柏崎市民プラザ
- ・参加者：13名
- ・議 題
 - 1) 平成26年度活動経過報告及び事業報告
 - 2) 平成26年度決算報告及び監査報告
 - 3) 平成27年度事業計画報告
 - 4) 平成27年度予算（案）について
 - 5) その他
- ・感想
上記の通り提案し、すべて承認されました。
その他来年度の総会会場や収入が少なくなってきたので、交通費と昼食は各単位子ども会で負担すること等が確認されました。



子ども会KYT初級指導者 養成講習会に参加して

新潟県子ども会連絡協議会 理事 佐藤 栄 作

〈はじめに〉

平成二十七年年度子ども会KYT初級指導者養成講習会が、講師に柴田俊明先生を招き、七月十二日の九時三十分から十八時までの日程で三条市青少年育成センターに於いて、受講者十六名が参加し、開催されました。

最初に、県子連の須田会長より開会あいさつがあり、講師の柴田先生の紹介をさせて頂いてから講習が始まりました。最後に、県子連の岡田副会長の開会のあいさつを頂いて終了しました。

〈講習プログラム〉

- (一) 危険(K)予知(Y)トレーニング(T)とは
- (二) 安全・危険・事故とは
- (三) 備えあれば憂いなし? 備えても事故は起きるか
- (四) 危険予知は、危険を知ることから



最終的には現場対応力を身に付けることを目的とした訓練であること。

(二) 子ども会が、KYTを取り入れた経緯には、先人たちの苦悩と挫折があった。その背景には、小四の尊い命の犠牲があった。「労働者を傷つけてはいけない。」と言

〈講習のポイント〉

- (一) KYTは、あくまでも手段であり、KYTからKYK(危険予知行動)に結び付け、最終的には現場対応力を身に付けることを目的とした訓練であること。
- (二) 子ども会が、KYTを取り入れた経緯には、先人たちの苦悩と挫折があった。その背景には、小四の尊い命の犠牲があった。「労働者を傷つけてはいけない。」と言
- (三) ヒューマンエラーは人間特性から生じる。人間はアンドロイドでも精密機械でもない。感情もあり、その時の体調や精神状態ともある。だからこそ何度何度度も繰り返し訓練を重ねること。そして、視差呼称・視差唱和・喚呼応答などお互い確認と報告をし、ミスを無くして事故を未然に防いでいく事が大切であること。
- (四) 今、子ども会から発信しよう!
- (五) 危険予知活動の例
- (六) KYT4ステップ体験学習第1ステップ「危険の発見」第2ステップ「これが危険のポイント」第3ステップ「あなたならどうする」第4ステップ「私たちはこうする」
- (七) 確認、やる気を実践してこそ、はじめてKYTだ

〈柴田ワールドが全開に〉



この日も柴田節がさく裂。柴田先生の講習は、けっして一方通行ではなく、途中で必ず何かをターゲットにし、そこからKYTへと話を展開し進めていく手法です。ですから受講者参加型なので、最後まで楽しく集

う産業界で培われてきたKYTの精神が、「子どもたちを傷つけてはいけない。」と言う精神で子ども会受け継がれていること。



中して受講できました。

〈子ども会の未来に向けて〉

子ども会が、持続可能で将来に向けて発展していくためには、安全教育を継承し、伝えていかなければなりません。それは、私たち受講者の使命でもあります。この講習会で得た知識と経験を各子連や各単子に持ち帰り、現場で活かしてこそ意義があるのだと思っています。子どもたちの「安心・安全」を目指し担保して成立させることが第一歩ではないでしょうか。

また個人的には、KYT中級指導者の取得を目指して勉強中の身であります。安全教育の推進・継承の一躍を微力ながら担っていければと思っています。

〈おわりに〉

この日は、今年の猛暑を予感するような暑い一日でしたが、受講者の皆様と最後まで見守って頂いた武士侯顧問、大変お疲れ様でした。

子どもの遊びのひろばin弥彦

新潟県子ども会連絡協議会 総務部長 近藤 義衛

越後一宮弥彦神社御遷座百年の年

に災害復興事業「子どもの遊びのひろば」を西蒲原郡弥彦村のご協力をいただき開催することができました。事前に弥彦村教育委員会社会教育課長さんと須田会長・板垣事務局長と打合せ会を設けました。新潟県子ども会連絡協議会（以下、県子連）で作成した「子どもの遊びのひろば」のチラシを村内の保育園・幼稚園・小・中学校にチラシ配布をお願いしたり、弥彦村広報誌に掲載依頼やスタッフの昼食弁当の注文を依頼したりして、準備万端の体制で臨みました。

開催当日七月十一日（土）は、初夏の心地よい風が吹く快晴の日でした。会場は、弥彦神社近くの弥彦体育館をお借りしました。県子連加盟団体からは柏崎市（工作等）・妙高市（スライム）・加茂市（バルーンアート等）・長岡市（キラキラシャボン玉）・三条市（おりがみ等）・新潟市（塗り絵アート）と地元の弥彦村（竹細工）の七団体で各ブース作りアリーナの中央に「積み木」を配置し子ども

もたちをむかえました。

「子どもの遊びのひろば」は、年に二回開催します。この事業は中越大地震のあと、地域の復興と子どもたちの笑顔を取り戻そうと始めた事業です。県子連総会が開催される会場と県内の市町村から一ヶ所を選び、事業を開催しています。

今回開催した弥彦村の場合は、幼児を連れた親子連れが多数参加していただきました。幼児教育から教育



を推進していると思いました。

体育館アリーナの中央に積み木を置き、自由な形を創造できる積み木は、子どもたちには人気のある遊び道具です。椅子を使って自分の背より高く積み上げていた子どもたちを見ました。親子で協力しながら積み木を組み立てていました。

バルーンアートブースでは、風船でこしらえもった刀でチャンバラごっこをしていた男児三人が広いアリーナで思いっきり刀を振り回していました。チャンバラごっこは今は見られない光景です。



竹細工ブースでは、竹トンボを作るのに小刀を不器用に使いこなしていた子どもが、手を切らなければよいがとハラハラドキドキしながら見ていました。私は、小刀の使い方は、野遊びしながら自然と覚えましたが、今日では体験を通して教えていかなければならない環境になったことです。大人になれば包丁やナイフを使う機会は多くなります。

また、保護者が、各ブースを回りながら子どもと一緒に熱心に講師の話を聞いている姿がありました。学んだことを自宅に帰って子どもに教えたり、地域に戻って教えていきたいと言っておりました。



子どもたちは、各ブースを繰り返し回って楽しんでいます。小学五年生の女子児童にききました。「楽しい」「楽しい」と笑いながら答えてくれました。

総勢約百八十人でした。

弥彦神社御遷座百年は次の百年に向けて節目としておこなうそうです。「子どもの遊びのひろば」が、次代を担う子どもたちにとって思いに残る事業として百年も続く事業につなげていきたいものです。

最後に会場を提供していただいた弥彦村に感謝を申し上げるとともに「子どもの遊びのひろば」に参加していただいた団体の皆さんに敬意を表します。

「子どもたちの笑顔をキーワード」に今後ともご協力お願い致します。

- (1) 期 日
平成二十七年十月十七日(土)
十九日(月)
- (2) 会 場
群馬県渋川市伊香保町
「ホテル木暮」
- (3) 団体表彰(子ども会)
・長岡市黒条地区連合子ども会(表彰状)
- (4) 個人表彰(指導者・育成者)
・阿賀野市
加藤 栄造(表彰状)
加藤みち子(感謝状)
・上越市三和区
大坪 寛(表彰状)
大坪 泉(感謝状)
・上越市柿崎区
佐藤 和美(表彰状)
佐藤満里子(感謝状)

おめでとうございます全子連表彰

県子連創立40周年記念事業

子どもの遊びのひろば

第1回 平成28年5月15日(日) in 新発田

(時間 12:30～ 会場 新発田市生涯学習センター予定)

第2回 平成28年6月19日(日) in 小千谷

(時間 11:00～ 会場 小千谷市東小千谷体育センター)

□ 今後の予定 □

【平成二十七年】

・関フロンティア中級指導者養成研修会
十一月二十一日(土)～二十二日(日)
群馬県青少年会館(前橋市)

・中越地区子ども交歓大会
十一月二十三日(月) 祝日
加茂市市民会館

・佐渡市子ども交歓大会
十一月二十八日(土)
サンテラ佐渡スパアリーナ

・第二回理事会

十二月六日(日)

長岡市中央公民館(さいわいプラザ)

・全国子ども会シニア・リーダー研修会
十二月十九日(土)～二十日(日)
国立オリンピックピック記念センター

【平成二十八年】

・関東甲信越静地区連絡協議会
会長・事務担当者会議
一月十七日(日)～十八日(月)
群馬県前橋市(アニバーサリー)

・第三回理事会
並びに臨時総会
三月六日(日)
新潟市大畑少年センター

・県子連だより第二一九号発行
三月十一日(金)

・第三回Jし中級研修会
三月十九日(土)
長岡市千手コミュニティーセンター



県子ども会連絡協議会 E-Mail n-kodomo@sage.ocn.ne.jp

あとがき

○街路樹の紅葉も一段と色づき、秋の深まりが感じられるところとなりました。事務局向かいのレストランには、今日もお客様の列ができています。

○今年度は、全子連が「設立五十周年」を迎え、群馬県伊香保で記念事業(記念式典等)が行われました。来年度は、新潟県子連が「創立四十周年」を迎えます。記念事業として記念式典、祝賀会、子どもの遊びのひろば、記念誌の発行等が予定されています。みんなで力を合わせて取り組みます。

○これまでの県子連は、「任意団体」ですが、来年度から「一般社団法人」になるための準備を進めています。法に基づいた運営が重視され社会的信用が高まります。

○県子連だよりの執筆・発行にご協力いただきました皆様、厚く御礼申し上げます。
(文責:板垣)

編集発行 新潟県子ども会連絡協議会
〒九五一八 一三三
新潟市中央区白山浦一三〇〇
電話 〇五―三三〇―五九八
FAX 〇五―三三〇―五九二